

## 第三節 天保期の飢饉

天保に入ると、不作と飢饉が続くようになる。天保三年（一八三二）六月中旬から八月上旬までの旱魃、「山内家史料（御国年代記）」の記事に見られる大日照、天保五年の干魃、天保六年の風雨四度。これにより不作が続き、百姓は不作飢饉に苦しめられ、その上一方で国産方仕法も強化される。「憲章簿国産之部」によると天保三年から樟腦しょうろうに口銀が賦課され、天保四年には移入する穉ひよにも、また天保五年には櫛かみにも、天保六年には砂糖にもこれが及び、商品生産への藩の依存度が高まっていく。ここで当村の民情を知る史料を入りたい。

名ノ川郷の百姓逃散事件を内包する天保十年（一八三九）、毎年のように続く飢饉と、藩の課税の増徴による苦しい生活、こうした山分の百姓の一断面を見ることができる文書が、佐川の青源寺（臨濟宗妙心寺派、深尾家

の菩提寺）に対し、その末寺であった寺村の成福寺から出されているのでこれを載せておく。

## 差 出

- 一、檀家三百軒、年分布施物ハ錢四百目斗リ御座候。
  - 一、宗門銀として人別耆人前四文充以八錢七拾目余相納申候。
  - 一、本田四拾代式歩寺中共、右之内畑毛少々御座候。此分ハ御貢物從檀中仕来リ御座候。
  - 一、祠堂地加地子八錢拾式匁御座候。外ニ寺扣御役知耆ケ所四拾代余御座候。御貢物寺ヲ仕来リニ御座候。
  - 一、檀中一統初穂として、夏ハ麦耆升充、冬ハ大豆耆升ツ、相納申候。尤地下役者先例ニ而出シ不申候。
  - 一、年頭ハ組頭迄中折耆連ツ、年玉として相勤申候。右之外檀中より相勤申候義無御座候。惣而益・彼岸ニ至迄耆人も参詣等仕候者無御座候。
  - 一、新亡之節呼寺僧請勤経度申出候者十人ニ耆人斗、余ハ皆道切手願出葬リ方仕、翌日・初七日之法事・三拾五日之法事道切手之礼とも八錢式匁・齋米耆升持参仕候而内々而耆其身不相応之酒宴等仕候義、甚心得違ひ之先例と奉存候。
  - 一、七歳以下子供死去仕候節ハ、寺江届出不申葬リ置候而日数相立候而子供相失ひ候ニ付地蔵ニ祭り候志なと、申出候者折節御座候。其中一向届出不申者茂御座候。重キ宗門御掟法ニ奉背儀与奉存候。
- 右者此度末山一同奉願上候儀ニ付、拙寺先例愁願之志趣願交々委難奉書上ケニ付、右之通差出之奉差上候間、宜敷御詮議被仰付度奉願上候。以上。

成 福 寺（印）

天保十年

亥二月十四日

清源寺

〔青源寺文書〕

注 八錢とは土佐藩における錢貨の名称である。近世貨幣の基本単位は金一兩〓銀五〇匁〓錢四貫(四〇〇〇文)であるから、銀一匁は錢八〇文〓八錢に当たる。

これをもう少し分かりやすく書いてみよう。

## 差出

- 一、私の受け持つ成福寺の檀家(寺に属する信徒)は三〇〇軒です、一カ年の布施物(僧への施し)は錢四〇〇目ばかりでございます。
- 一、宗門銀(寺請割)として、人別で一人前四文ずつ、八錢で七〇目余り納めております。
- 一、寺の分も含めた本田は四〇代二歩(一代は六歩)、その内に畑作が少しあります。この分の御貢物は檀家中より出ています。
- 一、祠堂地(お堂のある土地)の加地子は八錢で一二匁です。ほかに寺ひかえの御役知(寺への給料)、一カ所四〇代余りあります。御貢物は寺から出してあります。
- 一、檀家の一同は初穂(その年最初に取れた穀物などを仏にあげる物)として、夏は麦一升ずつ、冬は大豆一升ずつ納めてくれます。もっとも、地下役(庄屋・老・組頭等)は前からの例によって出してくれませんが。
- 一、年頭には組頭まで中折(紙の名称)一連ずつお年玉として、つとめてくれます。

右のほかは、檀家一同からは、つとめてくれるものはありません。

すべて、皆いつたいに、盆・彼岸に至るまで一人も、お寺参りしてくれる人はありません。

一、人が死んだときでも、寺の僧を呼んで、お経を唱えてくれと申してくる者は一〇人に一人ぐらい、そのほかは皆、道切手をくれと行ってきて自分で葬式をして、翌日・初七日の法事・三十五日の法事・道切手の礼とも八錢で二匁・お祭用の米を一升持つてきておいて、うちうちでは、その身に似合わない酒宴等しておりまして、大変心得違いの習わしと存じます。

一、七歳以下の子供が死んだときは、寺へ届けず葬式を済ませておいて、日数がたつてから、子供が死んだので、地藏に祭った、そのころさしなどと、言ってくる者も、折節ございます。中には何もお寺へ言いにこない者もあります。

これは重い仏法のきまりに、背くものと存じます。

右のことは、このたび末山(末寺)一同がお願い申しあげることでありまして、私の寺が前々から困っている事柄を書きあげて差し出しますので、よろしくお調べくださいますようお願い申し上げます。

成福寺

天保十年

亥二月十四日

青源寺

これを見ると末寺一同となっているので、池川の性林寺・遅越の長泉寺・森の正泉寺等も含まれると思われる、この当時は大体同じような世情であったことがうかがえる。